

独立行政法人地域医療機能推進機構 佐賀中部病院

令和6年度 第2回地域連絡協議会議事録

【日時】令和6年12月6日（金）18:00-19:00

【場所】佐賀中部病院 2階会議室

【出席者】吉原正博（佐賀市医師会長） 枝國源一郎（佐賀市医師会理事） 浅見豊子（佐賀大学リハビリテーション科診療教授） 坂本龍彦（佐賀中部保健福祉事務所保健監） 森留美子（佐賀市保健福祉部部長） 松見正宣（地域住民代表） 園畑素樹（院長） 岡洋右（副院長） 内田賢（副院長） 辻信介（健康管理センター長） 國重顕（事務長） 時里玉栄（看護部長）

以下当院会議支援参加者

横尾由紀子（副看護師長） 岩永由紀子（看護師） 古賀実希（看護師） 服部真和（MSW） 杉野遥香（事務員）

【書記】古賀実希

#### 【概要】

1.令和6年度病院経営状況報告について 國重顕事務長より

佐賀中部病院運営状況報告資料を参照

2.病院の現状と今後の取り組みについて 園畑素樹院長より

○泌尿器科の診療開始

○当直体制の強化：医師1名配置から、整形外科1名、整形外科以外（外科・内科）1名の2名体制に増員。整形外科は365日24時間の受け入れをしている。令和6年度は1700件ほどの救急患者受け入れの見込み。前年から300~400件増加している。

○手術件数の報告：当院は、大腿骨頸部骨折の地域連携パスに参加しており、佐賀県医療センター好生館とNHO佐賀病院、当院が基幹病院である。今年度の試算では大腿骨頸部骨折の手術件数は佐賀県医療センター好生館を上回る可能性がある。

○病院訪問の強化：地域連携室医師を増員し、計画的な病院訪問を行っている。その際、当院で作成した訪問病院の案内紙を提示し、同意を得たものを院内のデジタルサイネージで掲示している。

1病院を12秒間隔で現在75病院を掲示中。今後は100から150件に拡大予定。

○健全な病床管理を目指す：病床稼働率現平均94.6%平均在院日数12.7日

○佐賀市ふるさと納税について：佐賀県内初の試みとして、佐賀の両親、祖父母へのプレゼントなどとして、検診を贈る提案を行っている。メディア取材も多数受けている状況

○今後の展望：①医療DX導入としてAI問診を始め、業務の効率化を図る。②Cooliefの導入（高周波による治療。変形性膝関節症の適応：局所麻酔で実施可能）し、保存的加療と手術での人工関節の間をつなぐ役割を担う。

③Mako の導入：整形領域の手術支援ロボット。今後令和 7 年春の導入を目指す。佐賀県県内・長崎県内での導入は事例はなく、当院が初となる予定。

### 3. (質疑応答)

(枝國理事) 他院より急患を快く受けってくれるとの声をよく聞いている。高齢者の受け入れが多い現状であるか。認知症であったり肺炎や骨折などで、経過次第では ADL の低下でその後の退院に時間を要す事が多い事案についてはどうか。

(内田副院長) 肺炎については自宅からの入院で ADL の著明な低下で退院先に難渋するケースが少なくない。そういった患者の受け皿になる病院の開拓や構築が必要。

(吉原会長) 佐賀リハビリテーション病院への紹介に感謝する。病症利用率 94%は驚異的な数字である。Mako のメリットについて具体的にどのようなものがあるのかの説明を頂きたい。

(園畑院長) 人工関節の手術時骨を削る所にピンポイントにアプローチできる。人工関節手術でのナビゲーションの役割もある。加算としても得ることができる。

(浅見先生) 医療機器については整形外科以外の他科での導入希望はあるか。大腿骨頸部骨折の手術件数について、NHO が多い理由は何があるか。

(園畑院長) 眼科や泌尿器は医師が望む機械を購入している。しかし購入時にそのメリットなどのプレゼンテーションをお願いし、熟慮した上で購入をしている。

NHO の手術件数が特化して多い件については、市内の人口密度の関係と考えている。

(吉原会長) 訪問看護指示書は佐賀中部病院からの指示は多いか、院外からの指示が多いか。

(時里看護部長) 訪問看護指示書は 7 割が院外の医師である。当院の訪問看護は、3 名から 4 名に増員、24 時間体制を取っており、皮膚排泄ケア認定看護師が管理者として配置されている。月の訪問件数は 200 件から増員後には 350 件に増加している。

(森様) 昨年身内の入院に際し、し皆様に大変よくしていただいた。非常に手厚くサポートして頂いた事に感謝を述べられる。

(松見様) 少子高齢化を言われている昨今、訪問診療の導入を考えているのか。医療過誤は起きていないか。メディア戦略に大変力を入れている状況であるが、医療過誤問題等はすぐにメディアに取り上げられてしまう。重要な課題と捉えているか。

(園畑院長) 訪問診療は公的病院での導入は非常に難しい現状がある。当院では現状の導入は難しいと考えている。ただ、地域の患者からの要望があれば検討を行う必要がある。メディア戦略に関しては SNS での発信、インスタグラムも立ち上げ、更新をしている。ここ数年、医療過誤の事案はないが、十分に精査・確認が必要な事案と判断し、外部の監査を入れ話し合いを行ったケースが何件かある。本部はもちろん、第三者を入れての指導事案もあるが、裁判などに至ったケースはない。

(吉原会長) 訪問診療は地域の先生で担う必要があると考えている。中部病院にはその先生たちが困った時に、受け入れて頂く役割を担って頂きたいと考えている。

(以上)